

58(日)まど!倫理号です。一日厚いお礼ありがとうございます。今朝は衆議院補選の投票に行きます。今晩は判明するまでは「朗らかな心」になるようにしよう。

今週の

倫理

にはどうするのかわかる、明るく心でいる事でしょう。

幸世雄ぶアホ-鳥

2024. 4. 27~5. 3

4月のテーマ | 肯定的思考

1383号

歩いているときに前に進もうとする人は、自然と前を向いて歩きます。言い換えれば、前進しようとする人は、同時に後ろを向くことはないということなのです。

このことは、精神面においても同様で、物事を前に進めるには前向きな思考が肝要です。ところが人は「物事を前に進めたい」と願いながらも、思考が後ろ向きになってしまうことがあるのです。逆境に立たされた時、その状況を嘆いても、状況は好転するものではありません。

Yさんが入社して間もない約二〇年前のこと。配属先の営業部で、地域の家を訪問し、自社商品を勧めて回ることになりました。営業経験のないYさんは、マニュアルにあるセリフを頭に叩き込み、緊張感の中で家々のインターホンを押してまわりました。何件か留守宅が続いた後、初めてインターホンから声が返ってきました。

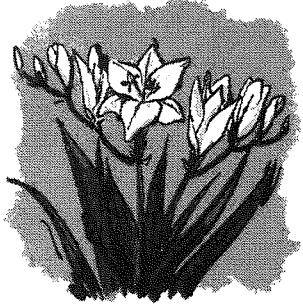
「こんにちは。〇〇社のYと申します。この度は…」と、マニュアル通りのセリフを言葉にすると、途中で「結構です」と切られてしまいました。その後も、「必要ありません」「迷惑です」と言われ続け、時には罵声にも近い言葉も浴びせられました。

結局、午前中の成果は0でした。前日まであったやる気は削がれてしまい、「どうせ次の家も断られるに決まっている…」と意気消沈してしまつたのです。

お昼休憩の際、午前中の状況を先輩に打ち明けると、先輩は「訪問販売は対応してくれる人の方が少なくて当然だよ。私は対

夕夜
一句「目に映えるナンジャモンジャも城に咲く」

朗らかな心は まわりを一変させる



応してくれないことに嘆くのではなく、対応してくれたことを喜ぶようにしている」と、営業の心得を語ってくれました。

その先輩は、午前中だけで三つ売り上げたと言います。暗い心では、物事は好転しないと感じたYさんは、明るい心を保とうと決心しました。

午後の営業では、午前と比べて状況の受け止め方が変わりました。午前中は、ただ嘆いているだけでしたが、「どうしたらこの状況を打破できるか」という建設的な考え方に変わったのです。

Yさんが苦慮したのはインターホン越しで断られてしまうことでした。なんとか顔を見て話がしたいと考えたYさんは、商店街の店舗や、街を歩いている人にも声をかけるようにしました。結果として、それが奏功し、良い出会いにも恵まれ、午後は四つを売り上げることができたのです。

倫理研究所の創設者、丸山敏雄は著書『人類の朝光』において、「明るい心」の効用について、次のように述べています。

朗らかな心は、まわりを一変させる、なごめる、おし開く。(中略)明朗は、積極的であり、建設である。

人の心は、車のヘッドライトのように、暗い中にあっても、明るい人が行く先は、明るく照らされるものです。つまり、状況や環境は自分自身の心が作り上げるのです。順境の際は誰でも明るくいられますが、逆境こそ明るい心と前向きな考えをもって、物事を前進させたいものです。